



ニナ役《広橋涼さん》エミリ役《桑島法子さん》 独占インタビュー

広橋さん・桑島さん、本日はニナとエミリを演じて頂きありがとうございました！

広橋さん・桑島さん：ありがとうございました！

インタビュア：収録中もブースで話題持ちきりだったのですが、お二人ともイメージぴったりで、すごく嬉しくてワクワクしてしまいました。

編集I：本当に素敵でした。

広橋さん・桑島さん：よかったです！

インタビュア：作品を目にだけではなく耳でも楽しんで頂けることになって、読者やファンの皆様にも喜んで頂けることかと思います。

Q. 演じられてみて、キャラクターたちの印象はいかがですか？

広橋さん：ニナは何だか難しいことをすらすら言ってるなあ、と思いました。

桑島さん：うんうん。

広橋さん：言葉遣いがすごく丁寧なんですよね、ニナは。

桑島さん：涼ちゃんそのものじゃない...？

広橋さん：そうですか？（笑）よく出来た子なんだなあって。しかもそれを当たり前だと思っていて、すごいな。

桑島さん：謙虚さがあるというか。でもニナ本人はそのつもりもないんだろうな。

インタビュア：自分の才能をひけらかさない子ですよね。転職したりすると、誰しも前の職場に対して多少なりとも思うところがあるかと思うのですが、彼女にはそれがなくて。

桑島さん：なかなかいないんですよね。美德が詰まっていて。

広橋さん：美德！（笑）見返りを求めるところがすごいキャラクターだな。

桑島さん：そんなニナに対してのエミリなんですが、とある理由で（詳しくは本編やTwitterプレゼント動画をご覧ください）年齢不詳な彼女ですが、対照的なこの二人が仲良くなれたのは何でなんだろう、と思いながら演じました。

二人とも、その、なんていうか...大勢友達がいるタイプではない...ですよね？

広橋さん・編集I・インタビュア：（笑）

編集I：たしかに...！

インタビュア：二人は「巡り合った」感じがしますね。がちっとハマったというか。

桑島さん：そうそう！ そんな関係性が掛け合いにもよく表れていて、お互いのことを想って必要としているのが素敵な関係性だなと思いましたながら演じさせて頂きました。

インタビュア：序盤は二人旅なのですが、物語が進むにつれて仲間（※発明家・アストリッド、狼少女・ティエン）が増えいくと、ニナを取られてちょっとエミリがやきもちを妬くような描写があります。

編集I：はい、軽い感じですけども。

インタビュア：二人組から人数が増えるとちょっと関係性のバランスが崩れることもありますよね。エミリにはそんな現実味のある等身大の可愛らしい一面があるなど。

桑島さん：やっぱり友達がいないのかな...

広橋さん・編集I・インタビュア：（笑）

桑島さん：でも、一度友達になると絶対ずっと大切にする子だと思います。

Q. 桑島さんへ質問：魔導士であるエミリは登場当初、なかなか自分の力を発揮できず苦しんでいる時期がありました。何か壁にぶつかった時に桑島さんはどういったモチベーションで向き合われますか？

桑島さん・桑島さん：<吉田山>！（拗って）

編集I・インタビュア：よしだやま！？

桑島さん：京都にある山なんですけども。

広橋さん：そこに<茂庵（もあん）>という飲食店がありまして「行きましょうよ、ほうこさん」ってお誘いして一緒に行つたんですよ。

桑島さん：そう。山の中にあるんだよね。

広橋さん：ちょっと私、地図が読めないので大変でした（笑）

編集I：（パソコンでホームページをお見せしつつ）こちらのお店ですね。

インタビュア：おお、外観も内装も雰囲気がありますね。

（※編集部注：こちらのお店は2022年8月14日に営業を終了される運びとなられたようです）

桑島さん：アクセスのページはあるかな...？

広橋さん：マップはありますけど、山だからな～。すごく獣道みたいな場所なんですよ。

桑島さん：ここにたどり着くまでの道のりが、まさに【冒険】だったね（笑）

広橋さん：お店までの自印が何も見つからなくて...。

編集I：京都って結構似た風景が多いから迷ってしまうこともありますよね

インタビュア：街中の通りも賽の目状ですしね...。

桑島さん：違うの、山だから！ 吉田山だから！（笑）

インタビュア：そうでした（笑）

広橋さん：でもやっぱりかなり迷いましたよ。夕暮れ時にはちょっとした...ね。

桑島さん：ちょっと現実離れした感じで、素敵なカフェでしたよ。美味しい。

インタビュア：何を召し上がられたんですか？ 京都ですと抹茶とか、スイーツ？

広橋さん・桑島さん：...あれ？ 覚えてないね。

編集I・インタビュア：ええ～！？（笑）

広橋さん・桑島さん：京都・女子旅、おすすめです！！（笑）

インタビュア：大人数だと統率が取れにくいですし、女子旅は二人とか四人くらいがいいですかね。

広橋さん：ですね。あとはく調べすぎない？というのがいいですよ。「大丈夫かな？」「大丈夫ですよ！」「よし行こう！」みたいな。

桑島さん：それで「よかったです、着いたよ～！」ってなるんだよね。

広橋さん：カフェ巡りでも旅でも何でも、目的地に到着するまでが楽しかったりします。

インタビュア：この作品もそんな感じの旅ですね。ちょっとしたハプニングを楽しむ感じ。

インタビュア：では、大人女子旅は<京都>ということで...。

桑島さん：京都もいいし鎌倉もすてき。日本全国で色々行ってみたいね。

広橋さん：ですね。島根とか... 九州だと長崎に行ってみたいな。

桑島さん：新潟の宣伝はしなくて大丈夫なの？（※広橋さんは新潟出身です）

広橋さん：実は私もよく知らないんです...

桑島さん・編集I・インタビュア：（笑）

広橋さん：地元は行ったことが無い場所が多いんですよ～！ 逆に再確認したいです！

桑島さん：長岡は花火とかあるじゃない？

広橋さん：遠くで家から見れちゃうんですよ... 「上がってんな～」って。でも近くで見たらもっとすごいでしょうね。あ、あとは『大地の芸術祭』というのがありますよ！

桑島さん：なにそれ、どんなの？

広橋さん：新潟の広い土地、畑や田んぼを使ったアートが見れるみたいです。芸術系だと『現美新幹線』という「走る美術館」が過去にありました。車両ごとにコンセプトが違っていて、それぞれアーティストの方が担当されているんですね。新潟は結構そういった大型の催しがあるんですよ。

桑島さん：新潟はアートの街なんだね。

インタビュア：芸術を感じたいとき、新潟においてますよ！ と...

桑島さん：あと四国にもありますよね、アートの場所。

桑島さん：とにかく、どん底までおちてみるとどうか（笑）

インタビュア：エミリにとってのニナみたいに、理解者が現れると救われたりもしますよね。

桑島さん：うんうん、誰かに話すのはいいですね。答えは求めずに...。そこで解決策が出なかったとしても、楽になれますね。

インタビュア：一度言葉にすることで、自分が何に悩んでいるのか整理されますし。

広橋さん：もやもやしたままよりは、吐き出した方が楽になりましたりしますね。大事かも。

桑島さん・編集I・インタビュア：（笑）

桑島さん：でも、一度友達になると絶対ずっと大切にする子だと思います。

Q. お二人へ質問：物語が進むと、ニナとエミリ、そしてアストリッドやティエンという4人の女子旅が始まります。女性と旅行するとして、おすすめのスポットやアクティビティはありますか？

桑島さん・桑島さん：<吉田山>！（拗って）

編集I・インタビュア：よしだやま！？

桑島さん：京都にある山なんですけども。

広橋さん：そこに<茂庵（もあん）>という飲食店がありまして「行きましょうよ、ほうこさん」ってお誘いして一緒に行つたんですよ。

桑島さん：そう。山の中にあるんだよね。

広橋さん：ちょっと私、地図が読めないので大変でした（笑）

編集I：（パソコンでホームページをお見せしつつ）こちらのお店ですね。

インタビュア：おお、外観も内装も雰囲気がありますね。

（※編集部注：こちらのお店は2022年8月14日に営業を終了される運びとなられたようです）

桑島さん：アクセスのページはあるかな...？

広橋さん：マップはありますけど、山だからな～。すごく獣道みたいな場所なんですよ。

桑島さん：ここにたどり着くまでの道のりが、まさに【冒険】だったね（笑）

広橋さん：お店までの自印が何も見つからなくて...。

編集I：京都って結構似た風景が多いから迷ってしまうこともありますよね

インタビュア：街中の通りも賽の目状ですしね...。

桑島さん：違うの、山だから！ 吉田山だから！（笑）

インタビュア：そうでした（笑）

広橋さん：でもやっぱりかなり迷いましたよ。夕暮れ時にはちょっとした...ね。

桑島さん：ちょっと現実離れした感じで、素敵なかフェでしたよ。美味しい。

インタビュア：何を召し上がられたんですか？ 京都ですと抹茶とか、スイーツ？

広橋さん・桑島さん：...あれ？ 覚えてないね。

編集I・インタビュア：ええ～！？（笑）

広橋さん・桑島さん：京都・女子旅、おすすめです！！（笑）

インタビュア：大人数だと統率が取れにくいですし、女子旅は二人とか四人くらいがいいですかね。

広橋さん：ですね。あとはく調べすぎない？というのがいいですよ。「大丈夫かな？」「大丈夫ですよ！」「よし行こう！」みたいですね。

桑島さん：それで「よかったです、着いたよ～！」ってなるんだよね。

広橋さん：カフェ巡りでも旅でも何でも、目的地に到着するまでが楽しかったりします。

インタビュア：この作品もそんな感じの旅ですね。ちょっとしたハプニングを楽しむ感じ。

桑島さん・編集I・インタビュア：（笑）

桑島さん：でも、一度友達になると絶対ずっと大切にする子だと思います。

Q. お二人へ質問：物語が進むと、ニナとエミリ、そしてアストリッドやティエンという4人の女子旅が始まります。女性と旅行するとして、おすすめのスポットやアクティビティはありますか？

桑島さん・桑島さん：<吉田山>！（拗って）

編集I・インタビュア：よしだやま！？

桑島さん：京都にある山なんですけども。

広橋さん：そこに<茂庵（もあん）>という飲食店がありまして「行きましょうよ、ほうこさん」ってお誘いして一緒に行つたんですよ。

桑島さん：そう。山の中にあるんだよね。

広橋さん：ちょっと私、地図が読めないので大変でした（笑）

編集I：（パソコンでホームページをお見せしつつ）こちらのお店ですね。

インタビュア：おお、外観も内装も雰囲気がありますね。

（※編集部注：こちらのお店は2022年8月14日に営業を終了される運びとなられたようです）

桑島さん：アクセスのページはあるかな...？

広橋さん：マップはありますけど、山だからな～。すごく獣道みたいな場所なんですよ。

桑島さん：ここにたどり着くまでの道のりが、まさに【冒険】だったね（笑）

広橋さん：お店までの自印が何も見つからなくて...。

編集I：京都って結構似た風景が多いから迷ってしまうこともありますよね

インタビュア：街中の通りも賽の目状ですしね...。

桑島さん：違うの、山だから！ 吉田山だから！（笑）

インタビュア：そうでした（笑）

広橋さん：でもやっぱりかなり迷いましたよ。夕暮れ時にはちょっとした...ね。

桑島さん：ちょっと現実離れした感じで、素敵なかフェでしたよ。美味しい。

インタビュア：何を召し上がられたんですか？ 京都ですと抹茶とか、スイーツ？

広橋さん・桑島さん：...あれ？ 覚えてないね。

編集I・インタビュア：ええ～！？（笑）

広橋さん・桑島さん：京都・女子旅、おすすめです！！（笑）

インタビュア：大人数だと統率が取れにくいですし、女子旅は二人とか四人くらいがいいですかね。

広橋さん：ですね。あとはく調べすぎない？というのがいいですよ。「大丈夫かな？」「大丈夫ですよ！」「よし行こう！」みたいですね。

桑島さん：それで「よかったです、着いたよ～！」ってなるんだよね。

広橋さん：カフェ巡りでも旅でも何でも、目的地に到着するまでが楽しかったりします。

インタビュア：この作品もそんな感じの旅ですね。ちょっとしたハプニングを楽しむ感じ。

桑島さん・編集I・インタビュア：（笑）

桑島さん：でも、一度友達になると絶対ずっと大切にする子だと思います。

Q. 演じられてみて、キャラクターたちの印象はいかが